

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	① 3校の取組みや実態を把握する ② 様々な分掌で定期的な連携の場をつくる	① いずれかの分掌でブロック会を行う。(生徒会・児童会か外国語) ② 管理職や事務職員を含んだ連携会議を開催する。 ③ 北陵ブロックの子どもの実態を分析する。	① 北陵ブロック授業スタンダード案を考える(研究授業等で) ② 1分掌以上で定期的なブロック会を行う。 ③ 小中で子どもが連携している行事を行う。(続けて取り組めるもの)	① 連携が必要な分掌を精査し、定期的な連携ができていく。 ② 北陵ブロック授業スタンダード案を実践した研究授業を行う。
確かな学力の育成	自ら考え、学び合う学習を通して確かな学力の定着を図る。	研究授業 教科(算数)研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習(モジュール学習) 家庭学習の手引きの検討 あゆみ 評価項目の検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(保護者)の実施	研究授業 教科研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習(モジュール学習) 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(児童)の実施 グローイングアップ計画の検証	研究授業 教科研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習(モジュール学習) 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(教師)の実施 グローイングアップ計画の検証
豊かな人間性を育む	一人ひとりの命と人権を大切に、多様な個性・生き方を尊重し合える児童の育成。	研究授業 人権 道徳教育全体計画別葉の作成と全教員の共通理解 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証	研究授業 人権 道徳教育全体計画に基づく実践、別葉の検証 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証	研究授業 人権 道徳教育全体計画に基づく実践、別葉の検証 特別の教科道徳の授業研究 規範意識を高める取組みの実施 家庭・地域への啓発 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証
健康・体力の増進	運動に親しむとともに食をはじめ規則正しい生活を実践し、健康・体力の保持増進を図る。	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・ボール運動 ・水泳指導 なわとび週間 学習・生活アップ週間 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・陸上運動 ・器械運動 なわとび週間 学習・生活アップ週間 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証	スポーツテスト全学年実施及び検証 体育職員研修の実施 ・表現運動 ・体づくり運動 なわとび週間 学習・生活アップ週間 食育・保健指導の充実 全国学力・学習状況調査(質問紙)の検証
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くことに関しては、概ね良好な結果であった。

②書くことに関しては、概ね良好な結果であった。

③読むことに関しては、概ね良好な結果であった。

④言語事項に関しては、概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式に関しては、概ね良好な結果であった。

②短答式に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率)

無解答率に関しては、概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・問題番号7ー(6)「指示」の漢字の読みを答える問題の正答率が最も高かった。
- ・問題番号7ー(1)「たいしょう(対象)」の漢字を書く問題の正答率が最も低く、無解答率も最も高かった。

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くことに関しては、概ね良好な結果であった。

②書くことに関しては、概ね良好な結果であった。

③読むことに関しては、概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式に関しては、概ね良好な結果であった。

②短答式に関しては、概ね良好な結果であった。

③記述式に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率)

無解答率に関しては、概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・問題番号1ー一 スピーチのふり返しをする中で、動画を見た目的を答える選択式の問題の正答率が最も高かった。
- ・問題番号2ー三 水やりが大変な理由を、本文から抜き出して、文章にまとめて答える問題の正答率が最も低かった。

分析

国語Aの「書くこと」についての正答率に若干の課題は見られたものの、国語ABを通じて、概ね良好な結果であった。しかし、全体的に選択式の問題については無解答率が低いが、記述式の問題については無解答率がやや高い傾向がうかがえる。特に、2ー三、3ー三の記述問題では、正答率の低さとともに、無解答率の高さが課題として見られる。記述式の問題になると無解答率が上がるということから、記述式の問題に対して苦手意識をもっている児童がやや多いのではないかと推測できる。

本校では、今年度算数科において「問題の趣旨を読み取る」力を育てる取組みを各学年で行っている。国語科においても、まずは問題の趣旨を理解し、本文から必要な情報を正確に読み取り、それをもとに考えて記述する力を育てていきたい。

また、質問紙調査において「国語が好き」「読書が好き」と答えた児童が非常に多い。その関心や意欲を大切にしながら、読解力を高めていく指導を行っていきたい。

算数

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算に関しては、概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定に関しては、概ね良好な結果であった。
- ③ 図形に関しては、概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係に関しては、良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式に関しては、概ね良好な結果であった。
- ② 短答式に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率)

無解答率に関しては、概ね良好な結果であった。

(その他)

正答率の高かった設問は、1(1)の乗法で表す問題、8の口を使って式に表す問題など、式に表し数量関係を理解する設問であった。

2(1)(2)(3)(4)のような数と計算の各設問についても、正答率が高い。

どの設問においても無解答率は低かった。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算に関しては、概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定に関しては、概ね良好な結果であった。
- ③ 図形に関しては、概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係に関しては、概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式に関しては、概ね良好な結果であった。
- ② 短答式に関しては、概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式に関しては、概ね良好な結果であった。

(無解答率)

無解答率に関しては、概ね良好な結果であった。

(その他)

正答率の高かった設問は、1(2)(3)などの数と計算に関する設問で、きまりや求め方を書くという設問であった。

正答率の低かった設問は、2(1)郵便料金を求める、4(2)割合を比較するグラフを選ぶなどの学習したことを発展的に扱った設問であった。

どの設問においても無解答率は低かった。

分析

A 問題において、ほぼ全ての設問で正答率が全国平均を上回り、算数の基礎が定着していると考えられる。ただ、基本的な問題ではあっても表の活用など、繰り返し学習されないものについては正答率が下がる傾向があり、このような学習については、生活の中や他の教科で活用し、定着をはかる必要がある。

B 問題の正答率も全国平均を上回る設問が多く、記述式問題でもしっかり問題に取り組むことができている。無解答率も低く、長文の問題も諦めずに解こうとする姿勢が見られる。ただ、問題自体の難易度はあまり高くないのに、日常生活に結びつけた問題だったり、少し角度を変えて尋ねられたりするとできなくなってしまう傾向があるので、今後も様々な問題に触れさせていく必要があると考える。

また、A問題B問題に共通して基準量、比較量の関係を捉えることが難しい児童がいる。いろいろな場面で数直線などを意識させ、その関係を考えさせていく必要がある。

質問用紙の回答は「算数が好き」「算数が役に立つ」などの質問に対して前向きな回答が多く、算数に対する意欲が感じられる。

ここ数年、算数における問題解決型学習に全校的に取り組んできた成果が様々な形で表れていると思われる。今後も児童の算数に対する前向きな気持ちを大切に育てながら、基礎をさらに固め、活用力がつけられるよう授業や指導法を工夫していきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語・算数とも平成27年度までは上昇傾向が見られたが、昨年度は大幅に下降した。しかしながら今年度は上昇に転じ、4テスト平均で全国平均を上回った。

無解答率も昨年度から大幅に減少し、最後まであきらめずに取り組むことができた。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

連続して上昇傾向であった学力高位層と、減少傾向であった低位層が昨年度は、逆転したが、今年度は、学力高位層が増加し、低位層が減少した。

また、エンパワー層は過去最低の数値となり、学力低位層の底上げに成果が見られている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業づくりについて

- ・「自ら考え みんなで交流しあう授業づくり ～問題をてきかくにつかむ力を育てる～」のテーマにそって各学年が研究授業に取組み、授業力の向上を図る。
- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。
- ・問題解決学習の推進。
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着
- ・効果的なICT機器の活用、支援教育コーディネーターと学習サポーターとの連携、
- ・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルール の定着
- ・校内研修会の実施

基礎的な学力育成を

- ・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム・ぐんぐんタイム・外国語モジュール学習
- ・学習サポーターと連携し、学力の向上を図る。
- ・朝の読書の実施、図書館支援員と連携し、読み聞かせやビブリオバトルなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携

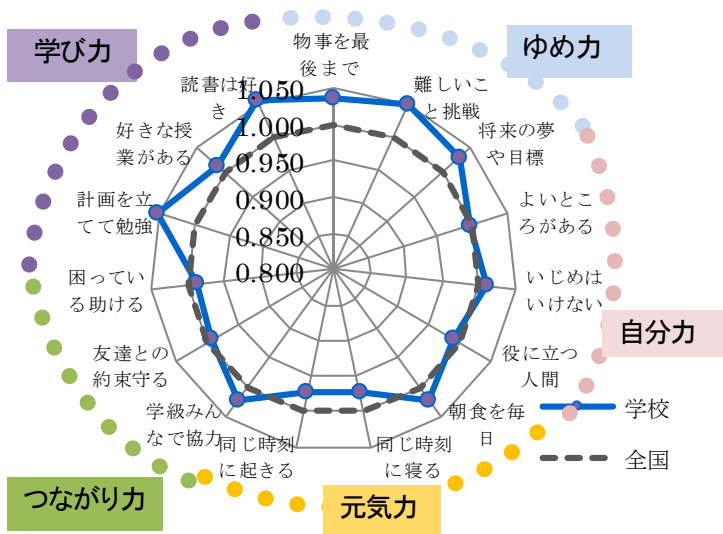
- ・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き
- ・家庭学習、自主学習の定着を図る。

小中連携の強化

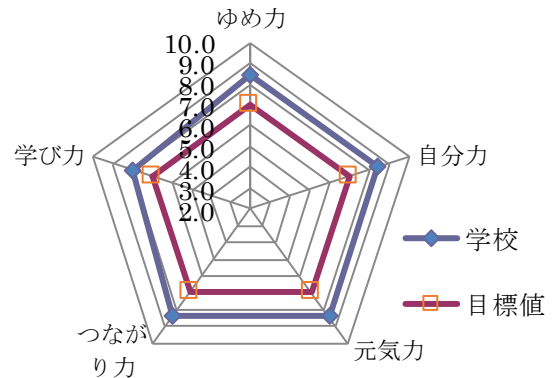
- ・小中合同研修
- ・北陵中学校校区の研究授業の実施
- ・交流会の実施

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

「ゆめ力」(将来展望を持ち努力できる力)

全国平均を下回っていた昨年度を大幅に上回り、高い数値となった。達成感を感じ、努力することの重要性を認識できるような取組みを今後も進めていきたい。

「自分力」(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

全国平均並みの数値となった。95%の児童がいじめはいけないと回答し、規範意識は高い。

「つながり力」(他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)

全国平均をやや下回る数値となった。「人が困っているときは進んで助けていますか」の項目で16%の児童が否定的な回答をするなどやや課題が残った。

「学び力」(意欲的に学ぶ力)

ここ数年全国平均を下回っていた「読書好き」の数値が大幅に上昇するとともに、「計画を立てて勉強する。」などの数値も全国平均を大きく上回った。

「元気力」(健康・体力を保持増進できる力)

96%以上の児童が朝食を毎日食べているが、「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」の項目が全国平均を下回り、やや不規則な生活を送っている児童が見られる。

取組み

ゆめ力

学年に応じたキャリア教育の推進・二分の一成人式の実施
ゲストティーチャーとの出会いを通して、仕事や生き方を学ぶ

自分力

規範意識を身につける。人を思いやる気持ち、人権感覚を身につける
自尊感情を高める。

つながり力

朝学習（なかよし学びタイム）
育む会（青健協）との連携、親子映画会・耐寒ハイキングの実施、地域の人たちとの交流、公民館との連携、地区運動会への参加、国際理解教育

学び力

朝の学習（基礎・基本の定着）
自分で課題を設定し、自主的に学習する力をつける。
ビブリオバトルなど読書活動の推進。

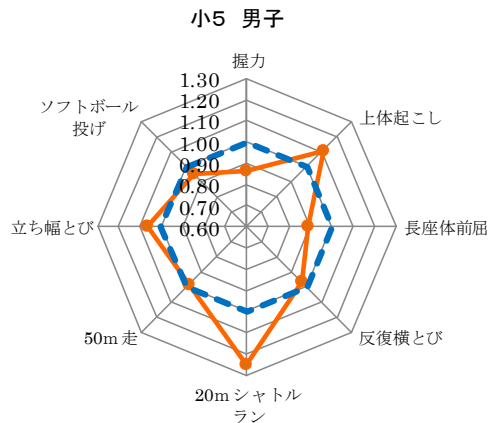
元気力

学習・生活アップ週間の実施、食育の推進

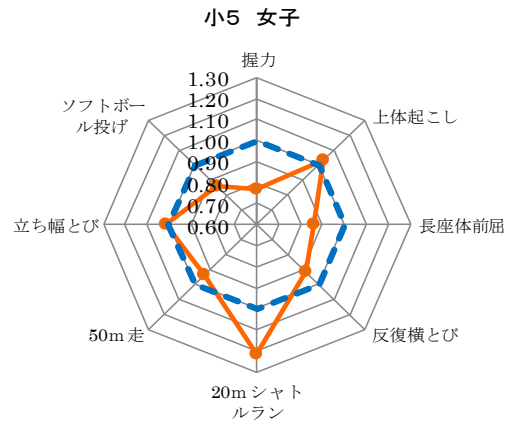
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

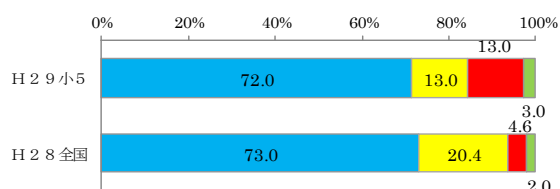
男子 (小5)



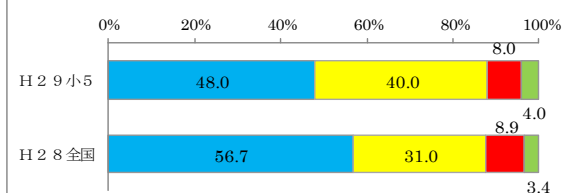
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ ややきらい
 ■ きらい

分析

男女ともに握力、ソフトボール投げ、長座体前屈、反復横跳びが全国平均値を下回っており、上体起こしと20mシャトルランが全国平均値を上回っている。運動能力のバランスに大きな偏りがみられる。

例年通りの結果に近く、大きな変化は見られない。

弱点である、握力、投力のみならず、立ち幅跳び、50m走、反復横跳びなど、瞬発力を要する運動の向上にも力を入れていく必要性を感じる。バランスよく平均的な数値を目指したい。

取組み

握力に関しては、握力計の使い方に着目した。児童一人一人にあった正しい測定方法で行い、再度結果を見たい。

今まで行ってきた取組みに加えて、瞬発力を鍛えるにあたり、遊具を使ったサーキットトレーニングを行いたい。校内にて、進めていくことが可能であるか、また、どのように進めるか検討していきたい。

(寒い冬の体育をするとき、茨木っ子運動Ⅱだけでは、十分に体を温めることができないのではないかと考えている)

- ・スポーツテスト全学年実施及び検証
- ・体育職員研修の実施 (ボール運動)
- ・なわとび週間
- ・茨木っ子運動Ⅱの全学年実施